

市長発言要旨

【発表事項】

① 「よねざわ環境×防災フェス 2026」開催のお知らせ

これまでは、「環境フェス」と「防災イベント（「あつまれ！ぼうさいの街」米沢青年会議所が主催）」を別に開催しておりましたが、今年度は、環境と防災を融合した「よねざわ環境×防災フェス 2026」として新たに開催するものです。

開催日時は、8月29日（土曜日）、午前9時から午後3時までです。

会場は、米沢市役所1階市民ホール、2階3階の会議室、市役所駐車場、そして置賜総合文化センター1階ホールです。

今年のイベントコンセプトは「水を守ることは、命を守ること。」です。

水は、生命や生活に欠かせないものですが、近年では豪雨災害や川から海へのゴミ流出の問題など、私たちの暮らしに重大な影響を与えています。

このイベントでは、水の流れを辿りながら、環境、防災、健康、エネルギー、資源循環、日々の暮らしのつながりを、見て・聞いて・体験しながら学ぶことができます。

会場は大きく4つのゾーンで構成されています。

「山の恵み」ゾーンでは、森林の保水力や地下水の仕組み、木材や生ごみなど資源循環を学びます。

「川のつながり」ゾーンでは、外来種、河川への不法投棄、水害、防災施設について学びます。

「まちの暮らし」ゾーンでは、環境と防災を日常生活の視点で学べるワークショップを実施します。

「海の未来」ゾーンでは、プラスチックゴミ問題や海の生態系について学びます。

各ゾーンでの展示に加えて、置賜総合文化センター1階ホールにおいて 午後1時から、
ごみ収集作業員でもあるお笑い芸人の「マシガンズ」滝沢秀一（たきざわしゅういち）氏によるトークショーを行います。 滝沢氏には、海洋プラごみやプラスチック問題について楽しく分かりやすく講演していただきます。

また、熱中症対策として、屋内で楽しめる「模擬スポ GOMI」を開催します。模擬的にごみ拾いを行い、スタンプを3つ以上集めると景品がもらえる企画です。

さらに、ビンゴ形式スタンプラリーやキッチンカーの出店に加え、パッカー車、パトカー、消防車、高所作業車などの「はたらくるま」の展示・試乗もあります。

午前11時ごろには、会场上空で消防防災ヘリの「ホバリング」も行われる予定です。

このイベントを通じて、「防災は日頃の暮らしの延長線上にある」という意識を市民の皆さんに知っていただきたいと思います。

また、このイベントは多くの企業、団体、学校、地域の皆さんの協力を得て開催します。この場を通じて、参加団体の皆さまがお互いの活動を理解し、今後の連携を深めるきっかけとなることを期待しています。

ぜひご家族や友人と一緒に気軽に遊びに来ていただき、楽しみながら「環境」と「防災」を考える一日を過ごしてください。

② 小児インフルエンザ予防接種費用の助成開始について

今年10月から「若者・子育て応援パッケージ」事業の1つとして小児インフルエンザ予防接種費用助成事業（R8新規事業）を開始いたしますので、お知らせいたします。

小児インフルエンザ予防接種は、国が予防接種法で定める定期の予防接種ではなく、接種を希望する人が自己負担で接種する任意の予防接種です。

助成の対象となる方は、接種日時点で生後6カ月～中学3年生のお子さんで、今年の10月1日から来年1月31日の間に受けた予防接種が対象となります。

接種は、注射で行うインフルエンザHAワクチンと鼻にワクチンを噴霧する、経鼻(けいび)弱毒(じゃくどく)生(なま)インフルエンザワクチンの2通りの方法があります。

注射で行うインフルエンザHAワクチンは12歳までのお子さんの場合、2回接種となるため、助成額は1回1,500円で1人につき2回まで、合計3,000円を助成します。

13歳から中学3年生までのお子さんは1回接種で、助成額は1,500円です。

鼻に噴霧する、経鼻(けいび)弱毒(じゃくどく)生(なま)インフルエンザワクチンは、2歳から接種可能な方法で、中学3年生まで1回接種となっており、助成額は3,000円です。

【参考】 通常の接種費用 (医療機関により異なる)

●市立病院の場合

注射2回で8,210円 (助成3,000＝自己負担5,210円)

経鼻1回で8,700円 (助成3,000＝自己負担5,700円)

助成を受ける方法は、委託医療機関（市内外約30医療機関）で接種する場合と、委託医療機関以外で接種する場合の2つの方法から選択できるようにします。

【参考】 委託医療機関：市内の小児科・内科のほか、川西町と高島町の小児クリニックも予定

委託医療機関で接種する場合は、医療機関窓口で医療機関が定める接種費用と助成額の差額を自己負担として支払います。委託医療機関については9月上旬に市ホームページ等でお知らせします。

委託医療機関以外の医療機関で接種する場合は、医療機関窓口で接種費用を全額支払った後に市に申請書と必要書類を提出していただきます。市で審査を行い、後日申請者の口座に助成額を振り込みます。

この助成事業の詳細については市ホームページに掲載し、内容を順次更新して参ります。

昨年度は例年より早い時期から小中学校等でインフルエンザの集団感染が発生しました。インフルエンザの感染予防は、予防接種だけでなく、日々の基本的な感染対策（手洗い、換気、マスク着用等の咳エチケット等）と規則正しい生活が大切です。

予防接種の費用助成開始を子育て家庭の皆様十分に知っていただき、感染対策について検討していただければと考えております。

③ 米沢市原料米価格高騰支援事業費補助金について

近年の米価高騰により、食品加工に使用される原料米についても著しく値上がりしており、本市の伝統的食文化を支える重要な地場産業である酒蔵やみそ・麴製造事業者は、厳しい経営環境に置かれています。このため、原料米の急激な価格高騰の影響を緩和し、経営の維持と安定を図るとともに、本市の

伝統的食文化を守り継ぐために、価格高騰分の一部を支援する新たな補助金制度を創設するべく、9月議会の補正予算に計上するものです。

補助対象となるのは、市内に事業所を有する日本酒・みそ・麴の製造事業者で、補助金の上限額は1事業者あたり100万円です。

対象となる経費は、令和6年産米と令和8年産米の仕入れにかかる経費の差額で、その2分の1を補助します。

補助総額は850万円であり、財源として国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用する予定です。

具体的な申請手続きや条件については、市議会で補正予算をお認めいただきましたら、本市公式ホームページ等で公表し、10月上旬から申請受付を開始する予定です。

④ 米沢市公共施設等総合管理計画・個別施設計画（第2期）（案）のパブリック・コメントの募集

本市では、公共施設の老朽化や人口減少・少子高齢化の進行、さらには厳しい財政状況といった課題に対応するため、平成29年3月に「米沢市公共施設等総合管理計画」を策定し、計画的な施設管理に取り組んでまいりました。

今回パブリック・コメントを募集する「個別施設計画」は、平成29年に策定した「米沢市公共施設等総合管理計画」の下位計画として、市が保有する公共施設等の効率的な管理に向けた取り組みを進めていくために、具体的な対策内容や実施時期を整理したものです。

本計画は、令和3年に策定しており、施設の状態や社会状況、財政環境の変化に対応するため、概ね5年ごとに見直しを行うこととしております。

今回の改定は、策定から5年を経過することから、各施設の劣化状況を改めて把握し、そのうえで当初策定時の施設の方針や近年の財政状況等を踏まえ、施設ごとの管理の方向性や更新等の必要性について検討し、その結果をとりまとめ、より適切な計画として再構築したものです。

計画期間は、令和8年度から17年度までの10年間となっております。

対象となる施設は、集会施設や文化施設、スポーツ施設、観光施設、産業施設、庁舎など多岐にわたり、これからの公共施設の管理を進めていくための大切な指針となるものです。

このたび改定した計画を第2期案として取りまとめましたので、広く市民の皆様からご意見をいただくため、パブリック・コメントを実施いたします。

意見の募集期間は、9月1日(火)から9月24日(木)までの24日間です。

第2期計画案は、市役所のほか、市ホームページや各コミュニティセンターなどでご覧いただけます。多くの市民の皆様からご意見をお寄せいただきたいと考えております。

⑤ 米沢市学校施設長寿命化計画 見直し(案)のパブリック・コメントの募集

本市の教育委員会では、学校施設の改修や整備・修繕を計画的に進め、財政負担の軽減及び平準化を図るため、令和3年7月に「米沢市学校施設長寿命化計画」を策定しました。

この計画は、学校施設の老朽化状況や児童・生徒数の推移、本市の財政状況等を鑑みながら、5年を目安に計画を見直すこととしております。

今回、策定から5年が経過することから、計画のフォローアップを行い、今後実施する改修等の具体

的な内容を示した実施計画の更新を行いました。 そのほか、対象施設の見直しや老朽化状況の再調査等を行い、各データを最新のものとしました。

このたび見直しを行った本計画について、広く市民の皆様からご意見をいただくため、パブリック・コメントを実施いたします。

意見の募集期間は、9月1日(火)から9月24日(木)までの24日間です。

計画案は、市役所・置賜総合文化センターのほか、市ホームページや各コミュニティセンターなどでご覧いただけます。多くの市民の皆様からご意見をお寄せいただきたいと考えております。

【回答事項】

① 「まもなくクマの出没多発時期を迎えますが、改めて対策についてうかがいます。」について

第一に、市民への注意喚起の強化です。

クマの目撃情報については、これまで同様、市公式SNSやクマ出沒情報共有アプリ「けものおと」を通じて速やかに情報発信するとともに、クマの出沒が増える時期や、県から警報が発令されている状況を踏まえ、時期や状況に応じた注意喚起を行ってまいります

第二に、関係機関および市内における連携強化です。

去る7月28日には、警察、猟友会、消防、県などの関係機関とともに、松川河川敷において緊急銃猟対応訓練を実施いたしました。対策本部の設置から関係機関による協議、地上及びドローンによる空中からの捜索、銃猟の実施まで、一連の対応を確認したところです。訓練の検証を行い、実際にクマが出没した際に円滑に対応できる体制の強化につなげてまいります。

また、クマ出沒時に、担当課以外から職員を動員するチーム制度を今年度から導入しております。チーム員についても、訓練に参加し、クマ出沒時の対応について確認いたしました。今後も、広報活動や注意喚起看板の設置など、担当課と連携し、出沒時の対応を支えてまいります。

第三に、捕獲に向けた迅速な判断と対応です。

秋は、クマが冬眠に備えて餌を多く必要とする季節であることから、人里への出沒や居座りが増加する傾向があります。これまで同様目撃、被害情報をもとに、センサーカメラの設置による監視強化や、猟友会と協議した上でのわなの設置など、より迅速な判断と対応を徹底してまいります。

なお、県による春季捕獲や本市においても可能な限り春から秋にかけて有害捕獲を猟友会にお願いし、現時点においても積極的な捕獲を推進しているところです。

最後に、市民が実施する環境整備や侵入防止柵の設置に対する補助です。

本市では、クマなどの市街地出沒を防止する目的で、市民や自治会が実施する不要果樹の伐採や緩衝帯整備に対する補助を行っております。昨年のクマ大量出沒を受け、現時点で多くの方から補助金をご活用いただいております。今年度約200本の不要果樹伐採と、6か所の緩衝帯整備が実施される見込みです。また、農作物被害を防止するための電気柵設置についても補助を行っております。いずれの補助事業も予算に限りがあるため、今年度中のご支援が難しい場合もございますが、来年度以降も事業を継続し、補助内容の拡充に向けて調整を進めてまいります。